

県内で初めて確認された園芸作物の新病害虫（平成9年～平成10年）

園芸試験場

1 取り上げた理由

宮城県内の野菜3作物（イチゴ、チンゲンサイおよびミツバ）と花卉2作物（トルコギキョウ、カーネーション）に原因不明の5種類の病害が発生した。病原菌の同定を行ったところいずれも、県内で未発生（既に国内で報告済み）であることが判明したので、参考資料とする。

2 参考資料

1) 野菜に発生した新病害



a イチゴ炭疽病（病原菌追加）  
<*Colletotrichum acutatum*>



b チンゲンサイ軟腐病※  
<*Erwinia carotovora*>



c ミツバ立枯病  
<*Rhizoctonia solani*>

2) 花きに発生した新病害



d トルコギキョウ青かび根腐病※  
<*Penicillium* sp.>



e カーネーション黒点病  
<*Heterosporium achinulatum*>

3 利活用の留意点

1) 表-1, 表-2を参照

2) ※新規病害を命名する場合、学会、研究会等に発表し、論文または講演要旨として掲載後に日本植物病理学会「日本有用植物病名委員会」に申請する。審査後に日本植物病理学会報の病名目録に掲載されるまでは、正式に病名として認知されないため仮称として取り扱われる。

(問い合わせ先：園芸試験場環境部 電話022-383-8132)

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 地域農業改良普及センター及び農家等からの病株の持ち込み診断依頼  
平成9～10年

2) 参考データ

表－1 野菜に発生した新病害

	病名	発生時期	病徴	留意点
a	イチゴ炭疽病 〈病原菌追加〉 (H10)	6月～11月頃	葉、葉柄、ランナーおよび果実に斑点症状を生ずる。従来発生していた炭疽病との違いは、株枯れよりも斑点性病斑が多く、葉枯症状が起きる。また、葉が葉縁から内部へ向かい黒褐色～褐色に変色する葉枯症状も認められる。多湿条件下では鮮やかな鮭肉色の胞子の固まりが多数認められる。 平成4年に、長崎県、栃木県で初めて確認され当初、葉枯炭疽病ともいわれていた。	高温多湿条件で多発しやすい。灌水は丁寧に行う。怪しいか株は直ぐに処分する。従来の炭疽病よりも多犯性である。 ベンレート剤とバイコラール剤には効果がないので、他の薬剤を使用する。使用時期に気を付けて使用する。
b	チンゲンサイ 軟腐病 (H10)	栽培全期間 (特に高温期)	葉や葉柄に初め水浸状の斑点ができ、次第に淡褐色～灰褐色となり拡大、軟化、腐敗して独特の悪臭を発する。収穫後の調製後に傷口等から発病することもある。 平成8年に、山形県の露地栽培圃場で初めて確認された。	露地、養液栽培とも発生するが、養液栽培の方が発生しやすく蔓延しやすい。 夏期(高温時)や収穫期に発生しやすいので、作付け時期を遅らす。
c	ミツバ立枯病 (H10)	栽培全期間	地際部が褐変し、子葉、本葉が水浸状になる。急激に葉が褐変枯死する。発生が著しいときは、地際部に褐色の菌糸がぐももの巣状になる。  昭和50年に、大阪府で初めて確認された。	梅雨、秋雨時期に発生が多く一度発生すると急速に蔓延する。一見無病徴でも市場出荷中に発病することもあり、被害は大きい。収穫後、保冷することにより被害を低減できる。リゾレックス剤、モンカット剤の登録がある。

表－2 花きに発生した新病害

	病名	発生時期	病徴	留意点
d	トルコギキョウ 青かび根腐病 (H9)	栽培全期間	生育が衰え、萎縮する(生育不良株)。根部には赤色～緑色の菌糸が付着している。 平成10年に、福島県で初めて確認され、岩手でも確認されている。	土壌消毒を実施する。加湿にならないようにする。 品種間差は特はない
e	カーネーション 黒点病 (H10)	栽培全期間	葉、蕾、茎に発生する。葉では、淡褐色、円形～楕円形の斑点を生じる。病斑部の中央部は黒褐色になり、周辺が輪状に縁取られる。茎では細長い楕円形、淡褐色の病斑となる。 古くから寒冷地を中心に発生が確認されていた低温性の妨害である。	斑点病と似ているが、全く違う病気で、発生してからでは効果のある農薬がないため、予防散布に心がける。ジネブ剤の登録がある。

3) 発表論文等  
なし